

写真提供：松葉社



交換し終えた畳を屋外でも使える敷物として生まれ変わらせる取り組みが、高山市森下町の松葉製畳で行われている。焼却処分への道しかなかった慣例を変えようと、7年ほど前から畳表を再利用。花見や農作業時に使うレジャーシートとして春先に無料配布しており、今年も3日間でなくなる人気ぶりだった。

(平田志苑)

その畳、まだ使えます

高山の松葉製畳 レジャーシートに活用

松葉製畳は60年ほど前に開業し、個人宅の畳の張り替えなどを担ってきた。1995年に父の跡を継いだ2代目の松葉清幸社長(54)によると、5〜10年して傷んだ畳はい草を織った畳表をはがし、裏返して再び使うことが多かった。ただ、近年は裏面が新品同様でも買い替えたいという依頼が増加。「きれいな緑色の状態で引き取ることも多く、もったいない。99%は捨てている」と頭を悩ませてきた。以前から、壁を塗る作業中に敷きたいという左官や、農作物を包むために欲しいという農家に、廃棄を待つ畳表を提供してきた。そうした需要があることをヒントに、「い草」として配布することを発案。1年間かけて品質を保っている物だけをため、仕事の少ない冬季にきれいに拭



再利用法「今後も模索したい」

き上げてほつれを直している。無料配布の時期には毎年20〜30枚を店頭に並べ、今年も小さな子がいる親らが多く訪れた。松葉社長は「農業の残留検査の基準が厳しい国産の物だけを選び、子どもが触っても安心できるようにしている」と話す。それでも、大半を廃棄する現状は変わっていない。かつては畑の肥料にも用いられてきたものの、現在の製法ではい草を結び付ける糸が土にかえらず、農機に絡まる課題がある。松葉社長は「い草には消臭やリラクゼーション効果のある成分も含まれる。何かいい方法がないか、今後も模索していきたい」と思案を続けている。



貼り付けた畳表をなでて仕上げる松葉社長＝高山市森下町で



木漏れ日
無所属 稲垣久美子
(海津市南濃町)

高山支局

〒506-0005

高山市七日町2-192-2

0577 (32) 0350

Fax (34) 5215

萩原通信局

0576 (52) 1025

Fax (53) 0006

飛騨通信部

0577 (73) 6701

Fax (73) 6738

美術品 高価買受

(秘密厳守)

版画 絵画
掛軸 陶器

無料鑑定 出張いたします
売るのも買うのも
何でもご相談下さい

イー・シー・アート
株式会社

0120
14-5448

岐阜市本荘中ノ町10丁目37-3
(県美術館東へ200m)